

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年目)

## 1. 研究課題

暴力・宗教・性の語りをめぐる

Narratives on Violence, Religion and Sexuality

## 2. 研究代表者氏名

田中 雅一 (2019年度は、菊地 暁)

TANAKA Masakazu

## 3. 研究期間

2018年04月 - 2020年03月 (1年度目)

## 4. 研究目的

本研究班の目的は、語りに注目しながら現代世界における暴力、宗教、性(ジェンダー/セクシュアリティ)を個別にではなく、包括的に考察することにある。ここでいう暴力は、国家間の軍事活動から、集団による他集団への暴力、そして個人間の対立、性暴力まで様々なものを含む。具体的には、主として文化人類学者を中心に、語りについての一次資料に基づいて考察を行う。また、ミクロな事例だけを分析するのではなく、国家や国際組織の活動を念頭に置いて、暴力の発動や抑圧、宗教や性の統御の問題を取り上げる。さらに、暴力や宗教、性が引き起こす問題との関係で、医療、司法、アートなどの領域をも研究対象とする。

## 5. 本年度の研究実施状況

研究会を二回、合評会、関連ドキュメンタリー上映会、公開講演会をそれぞれ一回行った。また関連資料の整理を行った。前期はメンバーの調査などの都合により、後期に集中して研究会や資料の整理を行った。

## 6. 研究成果の概要

なし

## 7. 本年度の研究実施内容

2018-10-20 パキスタンにおける暴力と宗教、性

現代パキスタンにおける女性たちのパルダ(Purdah)実践——都市高学歴女性の語りを通して

発表者 賀川 恵理香 ASAFAS

"Ladies of My Family"をめぐる

発表者 劉高力 人間・環境学研究所

2018-10-27 沖縄の売春を描いた「沖縄エロス外伝 モトシンカカランヌー」をめぐる

「沖縄エロス外伝 モトシンカカランヌー」をめぐる

発表者 富山一郎 同志社大学

田中(菊地)班

「沖縄アンダーグラウンド」をめぐって

発表者 藤井誠二

2018-12-09

女性に対する暴力と法規制

発表者 後藤弘子 千葉大学

監護権をめぐる法廷闘争の外—モロッコの一事例にみる監視／内偵の応酬と暴力の発動

発表者 斎藤剛 神戸大学

2019-02-02 2/2 合評会・ライラ・アブー＝ルゴド『ムスリム女性に救援は必要か』

コメント コメンテーター 村山由美 南山宗教文化研究所

コメント コメンテーター 渡部純 東京大学

2019-02-22 不在のイマーゴ

私流文化人類学におけるヘウレーカ、現代思想、不在のイマーゴ

発表者 田中雅一 人文科学研究所

### 8. 共同研究会に関連した公表実績

2018.6 田中雅一『誘惑する文化人類学——コンタクト・ゾーンの世界へ』世界思想社。2018.9 田中雅一「アウシュヴィッツにてホロコーストの生存者に出会うということ」『日本オーラル・ヒストリー研究』14: 43-54。

2019.3 田中雅一・松嶋健『トラウマ研究 2 トラウマを共有する』京都大学学術出版会。2018.7.30「現代インド世界における売春・宗教・ジェンダー暴力」

### 9. 研究班員

所内

石井美保、菊地暁、藤倉康子

学内

岩谷彩子(人間・環境学研究科、地球環境堂)、島田有紗(人間・環境学研究科 博士課程)、川本直美(人間・環境学研究科 博士課程)

学外

田中雅一(国際ファッション専門職大学)、河西瑛里子(国際ファッション専門職大学)、中屋敷千尋(日本学術振興会)、澤野美智子(立命館大学)、村上薫(独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所)、東聖子(近畿大学)、赤堀雅幸(上智大学)、小牧幸代(高崎経済大学)、辻上奈美江(上智大学)、内藤順子(早稲田大学)、嶺崎寛子(愛知教育大学)、斎藤剛(神戸大学)、佐々木祐(神戸大学)、和崎聖日(中部大学)、工藤正子(京都女子大学)、川西孝男(関西学院大学)

### 10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者

田中(菊地)班

所内		2 (0)	0	1 (1)	1 (1)	11 (5)	0	3 (3)	8 (2)
学内		1 (1)	0	5 (3)	0	0	0	0	0
国立大学		5 (1)	0	0	0	0	0	0	0
公立大学		0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学		0	0	0	0	0	0	0	0
大学共同利用機関法人		0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関		0	0	0	0	0	0	0	0
民間機関		0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関		0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0
計		8 (2)	0	6 (4)	1 (1)	11 (5)	0	3 (3)	8 (2)

※( )内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数  
なし

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由  
なし

13. 次年度の研究実施計画  
なし

14. 次年度の経費  
なし

15. 研究成果公表計画および今後の展開等  
なし